

新しい年のスタートにあたり謹んでごあいさつを申し上げます。  
旧年中のご厚誼に心よりお礼を申し上げます。

一昨年春、広島大学大学院医歯薬学総合研究所で大学院生を対象とした「メディカルベンチャー塾」が開かれ、講師として数回お話しする機会がありました。アメリカでの研究生活も長く、斬新かつ柔軟なアイデアをお持ちの升島努医学部教授の指導のもとで、主に薬学を学ぶ大学院生、留学生、約五十人が受講生。

平素、研究に明け暮れる研究者たちに、商売の現場での「利益とは」「融資と投資」「新規事業プラン」など初歩的なことを実践の立場で平易にお話しする講座です。タイ、パナマなどからの留学生たちも混じって、みなさん熱心に聴講して頂きました。我が社が受け取った「不渡り手形」の実物をもの珍しそうに手にとる学生。熱意あるレポートや質問をメールで書き送ってくれたこと、総じて男子大学院生の眼の輝きがやや鈍かったことが印象に残っています。

昨年秋、この講座の受講生の一人、青木悠里さん（女性・二七歳）がタンパク質の質量分析装置に必要な新技術のチップ（注射針）を生産するベンチャービジネス会社を設立し、青木さんがその新会社の学生社長に就任されました。

とてもうれしく思うとともに、日本も、広島も、ついにここまでできたか、という感慨を深くしたものです。

広島、長崎は来年二〇〇五年（平成一七年）に被爆六十周年を迎えます。

ヒロシマ、ナガサキの体験は、科学技術の進歩がもつとも目的に反した悲劇的な形で大衆に還元された典型例です。

例年八月六日の広島平和祈念式典を一日のみの祈りの場に終わらせることなく、当日をはさんだ約二週間を「芸術平和ウィーク（仮称）」として各種の行事を展開しようとの構想があります。骨格が固まればインターネットを通じてあらためてお知らせしたいと思います。ご支援のほど。

\*

日常生活のなかでもはや常識となりつつあるパソコン、インターネット。おじさんの身の回りにも思いがけない出来事が起こりつつあります。

アメリカから、ヨーロッパから、見ず知らずの人から「おじさんの青春日記」、インターネットで読ませてもらいましたよ、というメールが届くことにはもはや驚かなくなりました。

昨年末、雪の降りしきる土曜日の深夜、この新年のごあいさつを仕上げるためにパソコンに向かっていてるとき、思いがけなくうれしいメールが届きました。

一度だけの出会い、この一年半、やりとりもなかった方からのお便りです。

大変ご無沙汰いたしております奈良のT.Sです。一年半ぶりですがお元気ですか？

大阪のおでん屋 多幸梅<sup>レ</sup>で会って以来です。その後、私もパソコンの学校を卒業いたし、現在人材コンサルタントの会社に勤務いたしております。この会社にいますと世の中めまぐるしく、変化変化している事が良く分かります。時代に対応出来ない会社の衰退の早さ、年々危機感を感じながら働いています。里吉さんの会社は如何でしょうか？

私たちの会社はリストラに遭った人を、新たに別の会社に斡旋するのが現在の仕事です。うまくマッチング出来るよう努力していますが、年輩の求人先は余りなく、傾向として今の若い人は会社を平気で変わって行きます。

年代の層かも知れませんが、時代の流れかも知れません。混迷の時代(ブラックホール)……早く時代の流れに対応する会社と、人材が共生出来る会社が生き残るように思えます。

里吉様と一度人生を語りたく思いますので是非、来阪されたときTEL下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。

楽しみに待っています。 T.Sより

(携帯090-\*\*\*\*\*)

月に一度、あるいは思い出したようという不定期なペースで、私の会社の幹部スタッフ(といってもわが社は社員全員が幹部という小企業ですが)、に『社長メール通信』を配信しています。小言あり、情報提供あり、激励ありの、社員にとっては耳の痛い内容がほとんどです。

昨年七月のある日の『社長メール通信』です。

### 行きずりの出会い

大阪・梅田の或る「おでん屋」で隣席に座った行きずりの方と親しくお話しする機会がありました。六十歳。レナウン系の会社をこの六月に停年退職となり、次の就職にそなえて今、アビバへ通ってパソコンの勉強中で、「ホームページが作れるようになりましたよ」とのこと。

広島県福山市の盈進高校野球部出身ということで話が弾みました。とても六十歳には見えない若々しい感じで、しかも、おしゃれ。野球部時代やサラリーマン時代の体験話を色々と話して下さいました。

話しぶりも銜い(てらい・偉そうにひけらかすこと)はなく、言葉の無駄は一切なく、簡潔明快なお話しぶりでした。現役時代は相当の地位にあった方のようです。

高校を出てすぐに就職し、四二年間の会社勤め。その方に、

「四二年間仕事にたずさわられて、仕事をする上でもっとも重要とお思いになることは何ですか。端的に表す言葉がありますか？」

と質問してみました。

その方は数秒間考えておられました。つきに出た言葉は

「それは、教育、ということだと思えます。」

と実に明快にお答えになりました。

「自分は高校出だから初めのうちはしんどい仕事ばかりやらされました。しかし、野球部で猛練習を体験しているから、それはちっともつらいとは思いませんでした。そのうちに上司にも恵まれ、仕事を通じてさまざまな教育を受けることが出来ました。自分で勉強もしました。自分が部下をもつようになって、自分が受けた教育の大切さをいつも思い出し、自分の持てる知識や体験をすべて与えることを願って部下を教育しました。社員のすみずみまで良質の教育や思想が浸透してさえいれば、絶対に会社は傾くことはないと思います。これは家庭においても同じだと思っております。すべての仕事は『教育』に由来する、と自分は信じています」と。

次に経営者、リーダーに求められるものはなにか、という質問をしてみました。「役員はじめ多くの上司に仕えましたが、自分が尊敬できるリーダーはひとしく『謙虚』であり、『素直』な人物であったように思います。いくら地位が高くても偉そうにせず、末端の社員や部下の言葉を聞くこととする。いい意見であればすぐにとり入れようとします。こういう人は素晴らしいと感じましたし、実際そういう人は、会社での人望や社外での評価もあがっていききました……」。

たった一時間ほど、賑やかなおでん屋のカウンターでの会話でしたが、猛暑のなかで涼風に出会ったような清々しさを感じました。行きずりの人ではありますが、人生の一先輩から実に貴重な生きた教訓をいただいた思いでした。

\*

明日を夢見る者にとって歴史上稀に有為な技術の成果、パソコン。しかも我々はそれを個人で自在に使える時代に生きています。

広島市民有志の提唱は世界の人々の心を動かすはずですし、奈良のTSさんはアピバ仕込みのパソコン技術で求職者の復職に大いに貢献されるはずです。

ひとつひとつ年を刻むことが、新たな出会いと感動と勇気をもたらしてくれると信じて、また明日から歩を進めたいと思います。

ことしも敬愛する方々に「おじさんの青春日記 その八」をお送りできたことに感謝いたします。

ご健康をお祈りいたします。

里吉賢司